

環境調査を通して、SDGsを考える

ネイパル北見

## ネイパルこどもエコクラブ③

## 1 事業のねらい

地域の資源を活用し、SDGsの視点を取り組みに入れた活動を通じて、環境に積極的に取り組む心をはぐくむ。

## 2 事業の概要

- 期日 令和4年10月29日(土)～30日(日) 1泊2日
- 対象 小学2年生～6年生  
(キッズ=2年生、ジュニアレンジャー3,4年生、レンジャー5,6年生)
- 人数 21名
- 場所 ネイパル北見

## 3 プログラム

Kids		6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
29	晴天									開会式	ビーチコーミング		休憩	寝具準備	夕食	入浴	就寝準備	就寝
30	晴天	起床	洗面	朝食	片付け	発表準備	成果発表	振り返り	昼食	閉会式								

Ranger		6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
29	晴天									開会式	前回までのふりかえり	発表の準備	遺跡の森散策	夕食	発表の準備	入浴	就寝準備	就寝
30	晴天	起床	洗面	朝食	片付け	発表準備	成果発表	振り返り	昼食	閉会式								

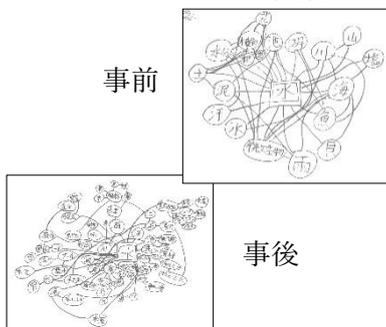
## 4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 発達段階に応じ全3回の活動を通したふりかえり
  - ・キッズ …ビーチコーミングで感じたことを  
絵日記風紙芝居を使い活動発表
  - ・ジュニア …SDGsクイズの作成、出題
  - ・レンジャー …次年度の計画案



学習成果の発表

## イメージマッピングの変容



## 5 事業の評価

事後アンケートからは事業への満足度は非常に高く、サステイナブルへの理解についての回答は「よくわかった」33.3%、「わかった」58.3%であった。  
事前と事後にイメージマッピングを用いた評価から、出現単語の数やツリーの数約2倍になった。  
このことから、学習の成果として思考の広がりや深まりがあったと推測される。  
次年度以降の継続的な取り組みとして、苗木を育て植樹するアイデアを採択し取組こととした。

## 6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 学年別編成により上位学年に頼らず自分の力で解決しようという姿勢が見られた。
- 活動の中から自発的な活動の計画を立案することができた。
- 活動を通じて高学年が中低学年を導くようなキャリア形成を意識したプログラムづくりが必要である。



## 企画のポイント

発達段階に応じた全3回の活動を振り返りと次年度につながる企画づくり。

# チャレンジキャンプ～ゆるチャレ～

## 1 事業のねらい

障がいのある仲間との交流を楽しみ、親子一緒に体験活動に取り組むことで、親子の愛着関係を深める。  
また、保護者間の交流をもち、障がいをもつ子の悩みや子育てについての情報交換の場を提供する。

## 2 事業の概要

- 期日 R5.1.14(土)～15(日) 1泊2日
- 対象 障がいをもつ子ども(小～高校生)とその保護者
- 人数 4家族9名
- 場所 ネイパル北見

## 3 プログラム

		12:30～13:00	13:00～14:30	14:30～15:00	15:00～16:30	16:30～17:00	17:00～17:50	17:50～18:00	18:00～19:00	19:00～21:00	21:00～
1日目 1/14(土)	受付	開講式	ゆるりんびっく	休憩	ゆるスノーキャンドル	宿泊者 休憩	部屋準備	夕食準備 (手洗い)	夕食	入浴・自由	自由・就寝
						日帰り 閉講式	保護者交流会				
2日目 1/15(日)	～7:30	7:30～8:30	8:30～9:00	9:00～10:30	10:30～11:00	11:00～					
	起床・準備	朝食	片付け 部屋点検	ゆるたこあげ	休憩	ふりかえり 表彰式 閉講式					

## 4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 障がいの有無にかかわらず楽しめるスポーツの提供
  - ・障がいの種類や年齢にかかわらず、誰でも気軽に取り組めるスポーツを行うことで、楽しくスポーツを体験できる機会とした。また、全員に賞状を渡し表彰することで、一人一人の頑張りを肯定する機会を設けた。
- 保護者交流会の設定
  - ・障がいをもつ子の保護者同士が、悩みを気軽に相談できる場を設定した。進路に向けた情報を交換したり、新しい人間関係を築いたりする機会とした。

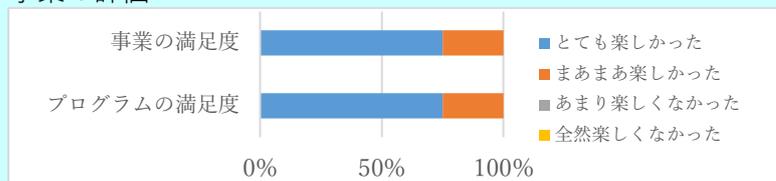


保護者も熱中した空気砲ボーリング



レジ袋を利用した凧あげ

## 5 事業の評価



参加者アンケートから

- 健常の子どもの活動はなかなか参加できないので、親子で楽しい時間を過ごせてよかった。
- 子どもたちが楽しく交流する姿が見られてよかった。
- 親子で参加する中で、お互いの失っていたものを発見できる機会になった。

## 6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 親子で一緒に参加することで、子どもは安心して活動に取り組めた。保護者も一緒に楽しむ中で、子どもの新たな一面を見るよい機会となった。
- 障がいのある子どもの能力差があり、全員が満足できる体験活動にはならなかった。活動の種類を増やしたり、ボランティアの数を増やすなどして対応したい。



### 企画のポイント

ゆるやかなスポーツ体験をつづじた、子どもと保護者、参加者間の和やかな交流場面の設定。

# 障害者の生涯学習推進コンソーシアム形成事業 インクルーシブキャンプ In ほっかいどう

## 1. 事業の目標

障害の有無に関わらず全ての人が体験できる青少年教育施設における活動の実践や参加者への調査を通じて、今後の障害のある方を対象としたプログラム実施に向けた実証研究を行う。

## 2. 事業の概要

- 期日 R4.2.11(土)～2.12(日) 1泊2日
- 対象 フリー
- 人数 13名
- 場所 ネイパル足寄
- 協力 北海道立生涯学習推進センター、北海道教育庁社会教育課、十勝教育局

## 3. プログラム

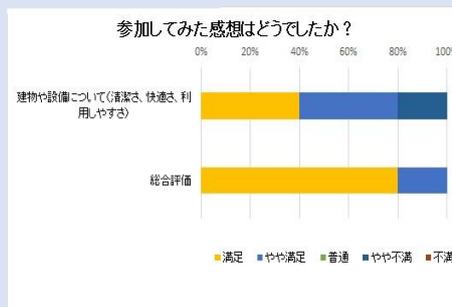
○1日目											
10:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	17:30	19:00	20:00	21:00	22:00
札幌市出発 (福祉車両借上げ)	開会式	ブレイク	オリエンテーション	入室 活動準備	サウナ講義 (サウナに関する注意事項等)	テントサウナ体験 (屋外特設設備)	入浴	夕食	軽スポーツ ポッチャ体験	就寝準備	就寝
○2日目											
	7:30	8:30	9:00	11:00	11:30	12:30	16:00				
起床・布団消毒	朝食	部屋清掃	コーヒー教室	ふりかえり	昼食	ネイパル足寄出発	札幌市到着		解散		

## 4. ねらいを達成するための工夫

「ととのう」および「ととのえる」ことに関する学びと体験を通した生涯学習の推進を目的として実施した。運営者は体験の一部にあるテントサウナにおいて、ヒートショック等の予測される事故のために、事前に AED 設置場所および、心肺蘇生法の確認を実施した。事業当日は保健士や介助者が同行し、健康調査を実施。車いす利用者の利便性を考え、段差が伴う部分へスロープを設置したことはもちろんのこと掲示物も車いすの方の目線に合わせて設置した。



## 5. 総合満足度



### ■参加者の声

- ・玄関、部屋、風呂場にスロープ、手すりがあり、段差がなく使いやすいと思った。
- ・ポッチャ、テントサウナ、コーヒー教室で車いす利用者でも参加しやすかった。

## 6. ねらいを踏まえた成果と課題

- 障害者を受け入れるために必要な準備、安全管理、健康管理などを施設として確立できた。
- 『ととのう』をテーマにした学びと体験を合わせたプログラム展開をすることができた。
- 手洗い場等の足元が設計上、車いすをいれることができなく手を洗う際に遠く、設備改善が必要な箇所の確認ができた。

## 👉 企画のポイント

利用者目線の高さに合わせて掲示物の掲示やスロープを設置することで、プログラムを体験できる環境作りに留意した。

# 海の環境レスキュー隊

## 1 事業のねらい

SDGs 目標 14「海の豊かさを守ろう」に焦点を当て、体験や観察等を通じて海の生き物の現状や海洋ごみ問題等について学ぶ。

## 2 事業の概要

- 期日 R4.9.24(土)~25(日) 1泊2日
- 参加 小学3年生~中学3年生・28名
- 場所 ネイパル厚岸及び厚岸町内の海岸
- 協力 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター厚岸臨海実験所、Amamo Works、北海道厚岸翔洋高等学校

## 3 プログラム

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
9/24 (土)							13:30 受付開始 14:00 開会式		開会式 自己紹介	海のお宝さがし (ごみ拾い) 荒天時 「海藻おしば」	休 けい	夕 食	講 演 「海の現状と 私たちにでき ること」	ふ り か え り	入 浴 ・ 自 由	就 寝 準 備	就 寝
9/25 (日)	洗 面	朝 食	バ ス 移 動	磯の生きもの 観察会 (厚岸町内)	バ ス 移 動	ふ り か え り	閉 会 式	※台風の影響で海藻おしばを実施 12:30 解散									

## 4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 立地や人材を生かした体験プログラム
  - ・太平洋に面する立地や、厚岸町内で海の研究に取り組む北海道大学北方生物圏フィールド科学センター厚岸臨海実験所、Amamo Works (アマモワークス)、北海道厚岸翔洋高等学校の協力を得て、参加者が実体験を通して海洋ごみ問題や生き物のゆりかごとなる藻場を守ることの重要性等について実感を持てるよう工夫した。
- 環境保全を「他人事」から「自分事」へ
  - ・各アクティビティ後のふりかえりで、ごみ、排水、海産物など、自分たちの暮らしと海が深く結びついていることに実感を持たせ、自分にできることを考えさせるよう工夫した。



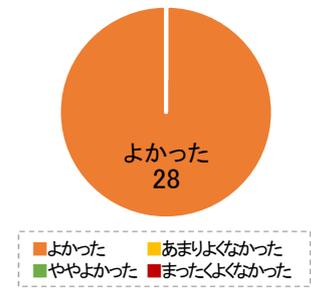
海藻おしば



磯の生きもの観察会

## 5 事業の評価

問「海の環境レスキュー隊に参加してよかったですか？」



- 参加者アンケートから「事業に参加してよかったか」の問いに28人全員が「よかった」と回答するなど事業に対する評価は高かった。(参加者の声)
- ・海にたくさんのごみが流れ着いていることを知って悲しかった
- ・プラスチックをできるだけ使わないようにしようと思った
- ・ごみを出さず、リサイクルする取組を進めていきたい

## 6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 活動中の「どんなに小さい生き物にも必ず名前がある」というつぶやきや、事後アンケートの「海にごみを捨てると生き物たちが困る」という記述から、活動を通して参加者と海との距離が徐々に縮まったことが見取れた。
- 干潮にあわせて開催日やプログラムを決めなければならないため、やや窮屈なプログラム進行を余儀なくされる場合がある。



## 企画のポイント

「体験」と「ふりかえり」を一体化することで、参加者と海との心の距離を縮める。

# 体験活動を通して自分や友達のよさに気づく 道東チャレンジキャンプ

## 1 事業のねらい

体験活動を通して自分や友達のよさに気づくとともに、集団生活を通して社会性や協調性を身につけることを目指す。

## 2 事業の概要

- 期日 R4.10.18(火)～19(水) 1泊2日
- 対象 心に悩みを抱える中学1年生～中学3年生
- 人数 生徒8名(引率教員4名)
- 場所 ネイパル厚岸
- 協力 厚岸味覚ターミナル コンキリエ

## 3 プログラム

	8:45 9:00 10:00			12:00 13:00			16:00			17:30 18:30 19:30			21:00 22:00	
10/18 (火)	受付	出発式	移動	活動① アイスブレイク	昼食	活動② 厚岸町デジタル スタンプラリー	活動③ ジェルキャン ドルづくり	夕食	入浴	活動④ キャンドル ナイト交流	就寝 準備	就寝		
	7:30	8:45	9:00	10:00	12:00	13:00	14:00	15:00						
10/19 (水)	起床	朝食	点検	活動⑤ フロア カーリング	カヌー体験 七宝焼き	昼食	振り返り	移動	閉会式	解散				

## 4 ねらいを達成するための活動の工夫

### ■仲間と協力する体験プログラム

- ・心に悩みを抱える生徒たちを対象としていたことから、最初のアイスブレイクでは対面の活動を避け、野外で色探しなどの活動を行った後、徐々にグループ活動につなげていった。
- ・厚岸町デジタルスタンプラリーは、参加者同士で相談してサイクリングコースを決め、道に迷っても運営者が誘導しないなど、最後までチームで協力し課題を解決することを徹底した。

### ■自分や友達のよさに気づく振り返り

- ・自分をじっくり見つめるとともに、活動の中で見つけた友達のよいところを話しやすくするために、キャンドルの灯りだけで振り返りを行った。



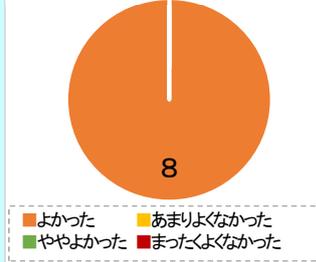
厚岸町デジタルスタンプラリー

## 5 事業の評価

### ■参加者アンケートから

- 「事業に参加してよかったか」の問いに8名全員が「よかった」と回答した。
- ・他の学校の人たちとあまり交流することがないからいい思い出になった。
  - ・チームの代表として後輩たちを先導するのは、大変だったけれど自分の中の最善を尽くすことができた。
  - ・みんなで励まし合ってゴールしたときに達成感を感じた。

問「道東チャレンジキャンプに参加してよかったですか？」



キャンドルナイト交流

## 6 ねらいを踏まえた成果と課題

- アンケートの「リーダーをしたことが今後に役立つと思う」「失敗したときにみんなの優しさを改めて感じた」などの記述から協力することによって、自分の頑張りや友達のよさを感じることができたものと考えられる。
- 様々な理由で事業に参加できなかった生徒たちの参加を促すために、学校や関係機関と連携して事業の成果等を発信していく必要がある。



## 企画のポイント

段階的に負荷を上げた活動の中で、能動的に自己決定する場面や、自分を見つめる機会を設定する。

# エンジョイ！ パラスポ

## 1 事業のねらい

パラスポーツを通して、障がいに対する理解を深めるとともに、多様性を認め合う社会づくりの醸成を図る。

## 2 事業の概要

- 期日 R4.12.3(土)      ■場所 サン・アビリティーズくしろ
- 対象 小学3年生～大人   ■人数 20名
- 講師 高瀬 勝洋氏(釧路市社会福祉協議会事務局長)  
武田 豊氏(車いすバスケットクラブFREEZZ代表)
- 協力 釧路市社会福祉協議会、車いすバスケットクラブFREEZZ

## 3 プログラム

	9	10	11	12	13	14	15	16	17	
12月3日(土)	受付 9:30	受付	開会式	【講演】 スパとポラは？	昼食	パラスポーツを体験しよう！ ◎やってみよう！車いすバスケ ◎やってみよう！ポッチャ		ふりかえり 交流	閉会式	解散 16:30～

## 4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 様々な参加者が一緒に活動し、多様性について考える
  - ・障がい等に関係なく様々な参加者が、パラスポーツを一緒に楽しむことを共有することで、パラスポーツのよさや多様性・障がいについて考えられるようにした。
- 地域に根差した活動／取り組みを目指したつながり
  - ・地域スポーツへ発展することを期待し、道東地域に住むパラリンピック経験のある講師や、車いすバスケットクラブの活動拠点でパラスポーツの指導や相談を行っている会場といった、地域資源と連携・協力して事業を実施した。
  - ・ゆとりあるプログラム構成によって会話を増やし、参加者同士や講師との関係、地域団体等とのつながりが作れるようにした。



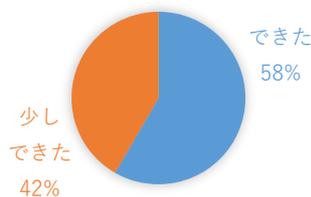
作戦を考え協力して行った  
ポッチャ



慣れない車いす操作に  
悪戦苦闘する参加者

## 5 事業の評価

障がいについて、自分の意見や考えをもつことができましたか？



### ■事後アンケート調査

・参加者全員が、障がいについて考えることができた」と回答した。

### ■参加者の声

- ・年齢、性別、障がいに関係なく楽しめるパラスポーツの良さが分かった。
- ・障がいという言葉に特別なイメージを持つ人が多いが、特徴の一つに過ぎないことを感じた。
- ・普段はなかなか体験することがないので、貴重な機会となった。

## 6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 体験を通して「障がいとは何か」「障がいのある人となない人が共に生きるとは」等を考えることで、多様性を認め合う足がかりとなった。
- 道東においてはパラスポーツを体験できる場所や機会が少ない。今後も関係機関や団体等と連携し、継続して実施するとともに、事業開催や趣旨を広く情報発信していくことが重要である。



## 企画のポイント

誰もが楽しめるパラスポーツを  
地域で行い、多様性を認め合う  
社会を自分事として考える

# インクルーシブキャンプ In ほっかいどう

## 1 事業のねらい

障害のある方々を対象とした生涯学習プログラムの実証研究を通じて、全ての人が生涯にわたって学び・体験できるネイパルを目指す。

## 2 事業の概要

- 期日 R5.2.13(月) \*日帰り
- 対象 障害者及び介助者
- 人数 5名
- 場所 ネイパル厚岸
- 協力 アサヒサウナ(旭川市)、一般社団法人地域福祉未来創造社(厚岸町)

## 3 プログラム

	15:30	15:45	16:30	17:30	18:15	19:00	19:25	19:30
活動	開会 ・あいさつ ・説明等	体験プログラム① 「軽い運動」 ストレッチや体操などの軽い運動	体験プログラム② 「テントサウナ体験」 体調確認→入浴・着替え→テントサウナ→水風呂 ※水風呂は希望者のみ	入浴・休憩 お風呂でサッパリ汗を流して休憩(水分補給)	夕食 サウナの後はネイパルで夕食!	ふりかえり 感想や意見をお聞きます	閉会・解散	

## 4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 全ての人の生涯にわたる学びの保障
  - ・全国でフィットネスジムや体操教室等を展開する当施設指定管理者による障害に応じた軽運動や、アサヒサウナ(旭川市)の協力によるテントサウナ体験など、誰もが生涯にわたって学び・体験できるようなプログラムを工夫した。
- 障害者の生涯学習に係る関係機関との連携
  - ・今回モニターとして参加いただいた一般社団法人地域福祉未来創造社や、開会から閉会まで安心して参加できるプログラム企画で厚岸町保健福祉課、また、テントサウナ体験ではアサヒサウナをはじめ釧路保健所・厚岸消防署に協力いただくなど、企画・実施を通じて各関係機関とのネットワークを構築できた。



サウナの前にリズム運動で一汗



熱波師による華麗なタオルさばき

## 5 事業の評価

参加者アンケートのうち事業運営面については全項目で「満足」の結果だったが、設備に関する項目では「靴箱の場所が分からなかった」など表示等で戸惑う場面があったことが分かった。

### 【参加者】

- ・サウナの熱風が気持ちよかった
- ・外のキャンドルが綺麗だった
- ・ゆったりとした気持ちになれる場所だと思った
- ・お風呂はちょっとぬるめだった

### 【介助者】

- ・隅々まで配慮してくれて、スタッフも親切で、ネイパルは安心して来られる場所だと感じた

## 6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 施設側の人的・物的環境整備や利用者・介助者との綿密な打合せを経て、障害のある方々に普段得難い貴重な体験を提供することができた。
- 今回身体障害者の参加者はなかったが、設備面で全ての人が安心して利用できるまでには至っていない。スロープの設置や視覚・聴覚障害に対応した誘導音機器、表示の工夫など出来る限り対応していく必要がある。



## 企画のポイント

障害の有無に関わらず全ての人が「学ぶって楽しい」と感じられる体験の精選。

1 事業のねらい

e-スポーツやドローンなどを活用し ICT に慣れ親しむ事を目的とする。また普段とは違う生活環境での集団活動を通し仲間を思いやる気持ちや自立心を養う。

2 事業の概要

- 期日 R5.3.25(土)~26(日) 1泊2日
- 対象 小学3年生~中学3年生
- 人数 27名
- 場所 ネイパル厚岸
- 協力 釧路工業高等専門学校、浜中町立浜中小学校

3 プログラム

	12:30		13:30		14:30		17:00		17:30	18:30		19:30		21:00	
3/25 (土)	受付開始	受付	開会式	自己紹介	体験説明	e-スポーツ体験会		布団説明	夕食	e-スポーツ振返り	入浴自由時間		就寝		
	7:30		8:30	9:00		11:00		11:45		12:00					
3/26 (日)	起床洗面	朝食	部屋点検	ドローンプログラミング体験		ドローン振返り		閉会式	解散						

4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 専門知識を有した講師陣の招聘
  - ・ 釧路工業高等専門学校の e-スポーツ部や浜中町立浜中小学校のパソコンクラブから専門の講師を招聘することで、より分かりやすい実技体験と講義を併せて行い、楽しみながら ICT についての学びや気づきを多く得られる場とした。
- デジタルツールを活用した仲間づくり
  - ・ e-スポーツやドローンのプログラミングという共通の趣味を活かし、異年齢集団でも仲間作りができるよう工夫した。
- パソコンやパッドを使用した活動
  - ・ キーボード、パッド使用により ICT に慣れる活動の場とした。



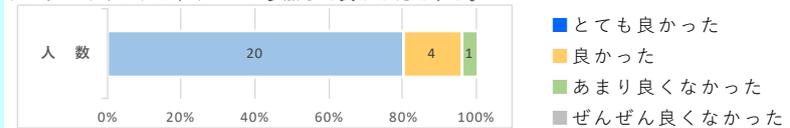
釧路工業高等専門学校、渡邊氏



デジタルツールを通した多世代交流

5 事業の評価

デジタルキャンプinネイパルに参加して良かったですか。



- 参加者アンケートから、「参加して良かったですか」に関する項目で、95%以上が肯定的な評価をした。
- その他の意見から  
その他の意見は「友達ができた」が最も多く 14 件、「勉強を頑張る」が 11 件、「あまり良くなかった」は友人関係によるもの。

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- アンケートには、「勉強を頑張る」などの声が多かったことから講義のメインテーマであった【ゲームと勉強の関連性】等に関する気づきや発見が得られたものと考えられる。
- 実際の体験の時間や講義の時間の割合など、講師陣との詳細な打ち合わせを実施し意見をいただくことで、より効果的な学びの場としていきたい。



企画のポイント

デジタルツールを活用する事で世代を超えた仲間との協働や ICT ツールの活用を体験